様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22 年　5 月 1 日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2005～2009
課題番号：17083012
研究課題名（和文）　寧波における知の営みとその伝統―学脈・宗族・トポフィリア―

研究課題名（英文）　Intellectual Activities and its Tradition in Ningbo
-Schools of Philosophy, Lineage, and Topohillia-

研究代表者
早坂　俊廣（HAYASAKA TOSHIHIRO）
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号：10259963

研究成果の概要（和文）：思想資料の読解と現地調査を活発に行い、その成果を、地図や写真、全祖望「書院記」の原文と現代語訳・注釈、現地調査報告などを有機的に組み合わせたデジタルコンテンツ「寧紹地区思想文化図誌」に集約した。それにより、宋代から清代にかけての寧波の学術思想史が明らかになっただけでなく、学問の聖地・寧波という「像」がどのように作られ語られてきたかを解明した。また、中国人学者の日本招聘・研究会の開催、中国国内で開かれた学会・研究会への参加・研究報告等も活発に行い、国際的な学術交流を推進した。

研究成果の概要（英文）：For these five years, we have advanced collaborative field research and text analysis about traditional intellectual activities in Ningbo. As this results, we finished the digital contents “Intellectual Topography in Ning-Shao area”（寧紹地区思想文化図誌）. This digital contents contains not only maps, photographs and reports concerning our field research, but also the translation of records about academies in Ningbo written by Quan zuwang（全祖望）, who was the scholar of Ningbo at Qing（清）era. Through this study, we could reveal correct images of traditional intellectual activities in Ningbo.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2005 年度	3,000,000	0	3,000,000
2006 年度	4,500,000	0	4,500,000
2007 年度	4,500,000	0	4,500,000
2008 年度	6,500,000	0	6,500,000
2009 年度	4,500,000	0	4,500,000
総　計	23,000,000	0	23,000,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学、中国哲学
キーワード：寧波学術、浙東学派、全祖望、書院、現地調査、場所愛（トポフィリア）

１．研究開始当初の背景

日本ともゆかりの深い港市・寧波は、中国近世思想史において特筆すべき存在感を有する地域でもあった。その寧波地域に関し、個別的な思想家研究は数多くあるものの、思想家たちの知の営みを時間的にも空間的にも総括して、なおかつ現実社会との接点まで見極めた上で分析した研究はほとんど見ら

れなかった。このことと関連して、歴史学の分野では「地域」という視点が議論のまとになってきていたが、中国哲学の分野では、数少ない例外を除いて、そのような視点から思想史を再構築しようとする動きがあまり見られなかった。地縁と血縁が大きく物を言う中国社会にあって、「地域」という視点が思想分析に有効であろうことは学界において意識されながらも、本格的な研究は数少なかったのである。このような趨勢のなかで、具体的な「地域」、つまり現地に深く入り込んだ新しい研究の成果が求められていた。

研究代表者の早坂は、1996 年から 97 年にかけて浙江省の杭州大学（現・浙江大学）において在外研究を行って以来、浙東地方（浙江省東部）の思想動向について継続的に研究を進めてきており、如上の共同研究の必要性を痛切に感じていた。そのような時に、大学院生のころからの研究者仲間が中心となって、「特定領域研究」を企画することになった。それは、東アジア海域における人的・物的交流の歴史を多分野横断的に分析し、日本の伝統文化形成過程を再検討することを目的とするものである。具体的には、中国大陸において東シナ海に面する中核的港湾都市として栄えた寧波を焦点に、歴史的存在として不断に変化する大陸文化がそれぞれの時点においてどのように日本に伝来し、どう影響を与え、どう変容してきたかという問題を検討することをめざした共同研究であり、上述のような問題関心をいだいていた早坂は、近世寧波地域の知識人の活動を研究することを柱に計画研究を組織することとなった。

２．研究の目的

以上のような研究の背景のもと、本研究は、長く豊かな知の伝統をもつ寧波というローカルな場に徹底的に密着しつつ思想家の言説を読み解いていくことを通して、思想史研究における「地域」という視座の有効性と中国近世思想史におけるこの地域の意義とを明らかにすることを目指した。

そのような研究を通して、当該地域の思想動態が明らかになることが期待されるが、もちろん、それだけにとどまるものでもない。言うまでもなく、本研究は特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成―寧波を焦点とした学際的創生―」の一部として組織されている。上に述べたような研究の目的が達成されることは、特定領域研究全体にも関わる「なぜ、寧波が焦点となるのか？」という問題を解明する一助ともなるはずである。そのような目的をも意識しながら、他の研究領域との学際的な連携や国際的な学術交流を促進して、より広い地平の中で本研究を成就させることを目指した。

３．研究の方法

地域としての「寧波」に着目すると、人々の思想的言説の表出には、互いに絡み合う地域の社会・政治問題や宗族意識などが関与していることが浮かびあがる。本研究は、思想史研究の基本であるテクスト分析を入念に行うことに加え、「学脈」「宗族」「トポフィリア（場所愛）」という視点を導入し、現地調査をも積極的に行なうこととした。また、精神文化の場としての「寧波」は、「浙東史学」「浙学」という、主に清代に形作られた「像（イメージ）」に覆われている。本研究は、「像」形成以前の「現実」に立ち戻りつつ、同時にその像を形成していく伝統ある文化的特性としてのローカルな場の磁性を明らかにしようとした。その手だてとして、そのような「像（イメージ）」の形成に強く関わった清代寧波の思想家・全祖望が残した書院に関する記録を共同で訳出するとともに、それに関連する土地・遺跡を中心にして現地調査を行い、その成果を多くの人が参照できるような形で公表することとした。

さらに附言しておくならば、このような研究手法を実践するうえでは、現地の研究者との連携が非常に重要になってくる。そこで、中国の研究者と積極的に連絡を取り合い、現地調査時の助言をいただくことはもちろんのこと、文献を読んでいるだけでは分からない現地の方々の「実感」から多くのことを学ばせていただくこととした。

４．研究成果

最も大きな成果として、デジタルコンテンツ「寧紹地区思想文化図誌」があげられる。これは、地図や写真、全祖望「書院記」の原文と現代語訳・注釈、現地調査報告などを有機的に組み合わせたデジタルコンテンツであり、これを見れば、寧波地域の学術文化に関わる地点・遺跡の大部分に関する情報を得ることができる。特に、特定領域全体の報告書にも収めた全祖望「書院記」の訳注作成は、それを見れば、宋代から清代にかけての寧波思想史を概観できるだけでなく、学問の聖地・寧波という「像（イメージ）」がどのように作られ語られてきたのかも実感できる内容となっている。

なお、現時点では URL が未定ではあるものの、このデジタルコンテンツはインターネット上で公開される予定である。また、現地調査に関しては、研究代表が所属機関のＨＰ上においてブログ形式で成果を公表し、研究成果の一般社会への還元に努めた。

さらに、現地の研究者との学術交流も活発に行った。現地調査時の交流だけにとどまらず、中国人学者の日本招聘・研究会の開催、中国国内で開かれた学会・研究会への参加・

研究報告等も活発に行った。それらの多くは、以下の〔学会発表〕で報告されているが、それのみならず、現地研究者との「座談会」形式の学術交流を江蘇省泰州において実施するなど、着実な形での国際的学術交流を積極的に推進した。

以上のような成果は、そのほとんどが「共同研究」により実現された。現地調査は、そのほとんどの期間において研究メンバー全員が揃って実施した。デジタルコンテンツ作成に関しても、全員で研究会を何度も開催し、さらにはメール等を駆使して意思の疎通と学問的精度の向上を図った。勤務地も出身校も異なる研究者集団が、これほどの密度で共同研究を推進した点については、ここに明記しておきたい。そのような学問的刺激は、多くの個別論文としても結実している。

さらには、本研究の成果に基づきながら、研究代表の早坂は、特定領域研究全体の研究成果を一般社会に向けて還元すべく、他の計画研究のメンバーと協力しながら、一般向けシリーズものの書籍を出版する準備を進めている。現時点では成果報告書に記せる段階まで来ておらず、そもそも特定領域研究全体の事業なので、今ここに本研究の成果として記すことはできないが、５年間の共同研究の成果がそのような形で結実する予定であることを、最後に記しておきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 21 件）
①荒木龍太郎　安部力　他 5 名，鄧豁渠「南詢録」訳注（一），『活水論文集・現代日本文化学科編』，第 53 巻，pp. 35-60，2010，査読無
②銭明著・久米裕子訳，「浙学」の呼称とその系譜，『京都産業大学論集（人文科学系列）』，第 42 号，pp. 254-270，2010，査読有
③荒木龍太郎，朱舜水与明末思想，『杭州師範大学学報・社会科学版』，第 31 巻第 4 期，pp. 8-14，2009，査読有
④荒木龍太郎，王陽明的万物一体論与無分別思惟，『陽明学派国際学術研討会論文集』，pp. 18-24，2009，査読有
⑤荒木龍太郎，王陽明の「万物一体之仁」の一考察 ―宗族との関連から―，『九州中国学会報』，第 47 巻，pp. 31-45，2009，査読有
⑥荒木龍太郎，王陽明に於ける生死観―無分別の観点から―，『臨済宗妙心寺派教学研究紀要』，第 7 号，pp. 19-36，2009，査読無
⑦早坂俊廣，＜場所の思想史＞序説（上），『信州大学人文学部人文科学論集＜人間情報学科編＞』，第 42 号，pp. 1-13，2008，査読有
⑧荒木龍太郎，朱舜水和明末思想，『中日朱舜水学研討会論文集』，pp. 115-124，2008，査読無
⑨早坂俊廣，寧波における知の営みとその伝統，『信大史学』，第 33 号，pp. 1－20，2008，査読無
⑩荒木龍太郎，幕末維新期的日本陽明学説―関于王陽明学説理解的方法与思考，『王陽明学術思想国際研討会議論文集』，pp. 93-99，2007，査読無
⑪荒木龍太郎，良知現成論者の考察―渾一と一貫の視点から―，『日本中国学会報』，第 58 集，pp. 140-154，2006，査読有
⑫早坂俊廣，方祖猷著「狂禅と事功を一身に集めた万表」解題・訳注，『東アジア海域交流史　現地調査研究－地域・環境・心性－』，第 1 号，pp. 107－124，2006，査読有

〔学会発表〕（計 7 件）
①早坂俊廣，全祖望と天一閣，国際ワークショップ「中国東南地区の文献集散と天一閣」，2009. 7. 23，中国浙江省寧波市
②早坂俊廣，冬青樹―全祖望の記録を中心にして―，国際ワークショップ「宋代社会文化史研究の方法論をめぐって」，2008. 12. 14，愛媛
③荒木龍太郎，朱舜水和明末思想，中日朱舜水学研討会，2008. 11. 21，中国浙江省余姚市
④早坂俊廣，土地の記憶／全祖望の記録，ワークショップ「焦点としての寧波・浙江-文化の多層性とその環境-」，2008. 7. 27. 東京
⑤荒木龍太郎，陽明学における死生観の諸相，特定領域研究「東アジアにおける死と生の景観」研究会，2007. 11. 24，岩手
⑥荒木龍太郎，幕末維新期的日本陽明学説―関于王陽明学説理解的方法与思考―，王陽明学術思想国際研討会，2007. 4. 26，中国浙江省余姚市

〔図書〕（計 2 件）
①静永健，荒木龍太郎　他，中国書店，『から船往来』，2009，pp. 69-87
②銭明，荒木龍太郎　他，浙江古籍出版社，『王陽明的世界』（浙江省），2008，pp. 519-527

〔その他〕
ホームページ等

①研究代表の早坂が所属機関のＨＰにおいて、現地調査の成果を一般向けに分かりやすくブログ形式で発信したもの
http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/prof/hayasaka_1/
②デジタルコンテンツ「寧紹地区思想文化図誌」はＤＶＤ版を製作したが、その内容を特定領域代表の所属である東京大学のサーバ

一上で公開する予定である（URL 未定）。

６．研究組織
(1)研究代表者
早坂　俊廣（HAYASAKA TOSHIHIRO）
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号：１０２５９９６３

(2)研究分担者
久米(神林)裕子(KUME/KANBAYASHI HIROKO)
京都産業大学・文化学部・准教授
研究者番号：１０３１０７４９

(3)研究分担者
荒木　龍太郎（ARAKI RYUTARO）
活水女子大学・文学部・教授
研究者番号：９０１２４１６４

(4)研究分担者
安部　力（ABE TSUTOMU）
北九州工業高等専門学校・総合科学科・講師
研究者番号：６０４３５４７７

(5)海外研究協力者
黒田　秀教（KURODA HIDENORI）
台湾・明道大学応用日語系・助理教授
研究者番号：なし

(6)海外研究協力者
銭　明（QIAN MING）
中国・浙江省社会科学院・研究員
研究者番号：なし

(7)海外研究協力者
方　祖猷（FANG ZUYOU）
中国・寧波大学浙東学術浙東仏学研究室・負責人
研究者番号：なし

(8)海外研究協力者
王　介堂（WANG JIETANG）
中国・寧波市江北区仏教協会・秘書長
研究者番号：なし